

之内、敷之所により枯竹多被爲取候跡、青竹然々と無之所明候所も可有之と思召候、左候而者見懸も可爲如何候間、左様之所には、此度青竹被爲植候而可然候哉、左之竹植候事者、此方御普請衆に成共可被仰付候間何方も青竹可被相渡候、九日子、一京總廻枯竹佐野請取分東寺らすい坂海道迄、合壹萬六千百拾三本、内六千三百七拾六本大竹、九千七百三拾七本小竹、但右之内拾五本結四百貳拾束同五拾本結百九拾四束三拾九本、一京廻枯竹杉山半左衛門堤大三請取分合壹萬貳千百五拾八本、内三百九拾貳束四本大竹、貳百拾五束拾四本小竹、二口合六百七束拾八本、右民部卿法印、桑形金右衛門、一瀬與左衛門、鷹見善兵衛相渡日記有之、

〔松屋棟梁集〕答赤松知則書

兩京は左京右京也、帝王は南面の位とまうせば、東を左とし西を右とす。○下

〔拾芥抄〕中本京職左朱雀東、姉小路北、七條北、堀川西、左京、堀川東右京、

〔和漢三才圖會〕山城七十二本都略○中

油小路之東爲左京、洛陽、西爲右京、長安、

〔京の水風〕左京右京之譯

左京右京坊城等の制度は、文武帝の御時、平城都に初て備れりと見へたり、亥かれども其詳なる事知べからず、桓武帝今地に都を遷し給ふより、こゝに於て兩京坊城の制法嚴重たり、これよつて推知べし、左京右京の廣さ、東西の條三十二町に、南北の條三十八町也、朱雀通<sup>今の千本通</sup>羅城門<sup>あり、南に</sup>、左京右京の間にありて、道幅二十八丈なり、これより東の分を左京とし、左京職これを掌る、其中に町數六百八町、保數百五十保、坊數三十六坊あり、委<sup>は未に</sup>東の端を京極といふ、朱雀通より西の分を右京とし、右京職これを掌る、其中に町數六百八町、保數百五十保、坊數三十六坊あり、左京と同じ事にして、これも西の端を西京極といふ、○下